

科目名	小児看護学概論	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 小児期にある対象と家族が理解できる 2. 小児看護の役割が理解できる。 3. 子どもの権利を保障することの必要性が理解できる。			
使用テキスト	テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	小児看護の対象	1. 小児看護とは 2. 小児看護の対象 3. 子どものとらえ方の変遷 4. 小児看護の目的と役割	講義	
2	小児の成長発達の特徴	1. 成長発達の特徴 2. 成長発達の評価 3. 小児に起こりやすい事故	講義	
3	子どもの成長発達その1	1. 発達段階別形態的発達 2. 器官系統系別機能的発達	講義	
4	子どもの成長発達その2	1. 心理的特徴 2. 社会的特徴(言語・遊び) 3. 小児看護に必要な看護理論	講義	
5	小児の最善の権利	1. 子ども・家族の権利とは 2. 子どもの権利条約 3. 子どもを守る法律	講義	
6	子どもをとりまく社会の状況	子どもをとりまく社会の状況	GW	
7	子どもをとりまく社会の状況	自己学習発表会	発表会	
8		単位認定試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	子どもの成長発達に応じた看護	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 母子保健、小児保健のあり方が理解できる。 2. 子どもの成長発達段階に応じた健康増進の看護が理解できる。 3. 健康障害のある子どもおよび家族に必要な看護が理解できる。			
使用テキスト	医学書院 小児看護学概論 小児臨床看護総論 専門分野Ⅱ パーフェクト臨床実習ガイド小児看護実習ガイド			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	成長発達に応じた子どもへの関わりの基本	1. 小児看護とは 2. 小児看護における倫理 3. 子どもとのコミュニケーション	講義	
2	小児の健康生活と法律・制度①	1. 母子保健と子育て支援	講義	
3	小児の健康生活と法律・制度②	1. 虐待防止 2. 学校保健 3. 予防接種	講義	
4	子どもの健康増進のための看護(成長発達の特徴) ～日常生活を軸に～	1. 乳児期 2. 幼児期 3. 学童期 4. 思春期	GW	
5		↓		
6	発表会	発表・まとめ	GW	
7	子どもの養育および看護	1. 新生児の養育および看護 2. 乳児の養育および看護 3. 幼児の養育および看護 4. 学童の養育および看護	講義	
8	小どもの栄養 1. 離乳食について	1. 子どもの栄養について学ぶ意義 1) 国の政策 2) 食育基本法 3) 子どもにとっての栄養の意義 2. 乳幼児期の栄養 1) 栄養の種類2) 母乳栄養の特徴 3) 栄養摂取のポイント4) 人工乳の種類 3. 離乳食について 1) 食に関する体の統合 2) 離乳食開始の時期	講義	
9	子どもの保健 子どもにとっての栄養 1. 離乳食の形態 2. 学童期の食事の問題	1. 離乳食の形態 1) 初期・中期・完了期 2) 離乳食を援助する時の基本姿勢 2. 子どもに多い健康問題と保健指導 1) 肥満 2) 痩せ	講義 実習	
10	子どもと家族にとっての入院環境	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	講義	
11	健康障害をもつ子どもの発達段階に応じた看護①	1. 子どもへのコミュニケーション技術(遊び) 2. さまざまな状況にある子どもと家族の看護 (急性期・周手術期・慢性期・終末期)	講義	
12	健康障害をもつ子どもの発達段階に応じた看護②	1. 障害のある子どもと家族の看護 (先天性疾患・心身障害)	講義 GW	
13	子どもの健康障害・成長発達	1. 健康障害・成長発達に応じた遊び	GW	

	に合わせた遊び	2. 危険リスクの予測 3. 小児看護における遊びの重要性		
14	発表会	発表会・まとめ	GW	
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	健康障害のある子どもの看護	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時期(単位)	30時間(1)	
講師名	看護師			
科目目標	1. 健康障害が子どもや家族に与える影響とその援助方法が理解できる。 2. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、子供と家族への看護が理解できる。 3. さまざまな状況にある健康障害を起こした子どもと家族への援助が理解できる。			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護臨床看護各論 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 子どもとアセスメント	1. アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション 2) 身体計測 3) 身体的アセスメント 2. 症状をしめす子どもの看護 不機嫌、涕泣、痛み、呼吸困難 チアノーゼ、ショック、意識障害 けいれん、発熱、おう吐、下痢、便秘、 脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸	講義	
2	2. 検査・処置を受ける子どもの看護	1 検査・処置総論 2. 薬物動態と薬用量の決定 3. 検査・処置各論 与薬、輸液管理、抑制、検体採取 電法、清潔、経管栄養、排泄	講義	
3	3. 子どもを取り巻く環境と事故	1. 子どもの死因 2. 主な事故・外傷と看護 (誤飲・誤嚥・溺水・熱傷・熱中症) 3. 子どもの事故防止対策 4. 小児救急看護の現状と問題点	講義	
4	4. 精神的ケアの必要な子どもの看護	1. トラウマと PTSD の違い 2. いじめ 3. トラウマ、PTSD の看護 4. 発達障害児と看護	講義	
5	5. 免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ疾患と看護	1. 免疫疾患について 2. アレルギー疾患について 3. 子どもとアレルギー 4. 子どもとリウマチ	講義	
6	6. 内分泌疾患と看護	1. 内分泌疾患と子どもの看護 1) 下垂体疾患 2) 成長ホルモン分泌不全 3) 複合型下垂体不全 2. 甲状腺疾患と子供の看護	講義	
7	7. 消化器・代謝疾患と看護	1. 1型糖尿病の子どもと看護 2. 消化器疾患の子どもと看護	講義	
8	8. 感染症総論	1. 子どもの感染症 1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) ムンプス 5) 細菌性感染 2. 感染症の子どもの看護	講義	
9	9. 呼吸・循環器系疾患を持つ子どもの看護	1. 呼吸器系 1) かぜ症候群 2) 肺炎 2. 循環器系 1) 川崎病 2) フォロ	講義	

		一四徴症		
10	10. 腎・泌尿器系疾患を持つ子どもの看護	1. 腎・泌尿器系 1) ネフローゼ症候群 2) 糸球体腎炎 3) 尿路感染症	講義	
11	11. 神経系、運動器系の疾患を持つ患児の看護	1. 神経系 1) けいれん 2) 脳性麻痺 3) 水頭症 2. 運動器系 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸	講義	
12	12. 悪性新生物	1. 診断検査を受ける子どもの看護 2. 放射線治療を受ける子どもの看護 3. 手術を受ける子どもの看護	講義	
13	13. 血液造血器系疾患を持つ患児の看護	1. 血液・造血器系 1) 貧血 2) 再生不良性貧血 3) 白友病 2. 化学療法を受ける患児の看護 3. 退院後の生活支援	講義	
14	14. 皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患を持つ児の看護	1. 母斑・アトピー性皮膚炎 2. 斜視・結膜炎 3. 中耳炎・咽頭疾患	講義	
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	小児看護学演習	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(1単位)	
講師名	専任教員A 看護師B			
科目目標	1. 子どもの成長発達を考慮して看護過程が展開できる 1) 小児看護の対象が理解できる 2) 小児の看護過程の特徴が理解できる 3) 小児の発達に応じた説明と同意(プリパレーション)が理解できる 4) 小児の発達段階・障害された機能・経過別に応じたアセスメントができる 5) 小児の発達段階・障害された機能・経過別に応じた看護問題が抽出できる 6) 小児の発達段階・障害された機能・経過別に応じた看護計画が立案できる 2. 子どもに対する基本的看護技術が習得できる 1) 成長・発達の評価ができる 2) バイタルサイン測定ができる 3) 小児特有の検査・処置時の看護がわかる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護概論 小児臨床看護学総論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド小児看護実習ガイド 照林社			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 小児看護過程の捉え方	1. 小児看護過程の考え方 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目的 3) 小児看護の特徴 4) 小児のアセスメントの考え方 2. 演習の進め方について 3. 看護師として小児看護で何を大事にしたいか	講義 演習の進め方 演習を行うための事前課題の提示	A
2	2. 事例紹介 情報整理	1. 小児看護記録用紙について 2. 小児看護における情報収集 3. 事例紹介 4. 事前学習をもとに個人でフェイスシートに情報の整理を行う	講義 GW 課題あり	A
3	3. 小児の発達段階・障害された機能・経過別に応じたアセスメント	1. アセスメント項目それぞれに対し発達段階、健康障害の状況に合わせて、現状の評価、原因・誘因、なりゆきを記述する 2. 行ったアセスメントについて、グループで共有し、自分が考えていなかった視点を得る 3. 身体面だけでなく、心理面、社会面のことも踏まえてアセスメントする	講義 GW 課題あり	A
4	4. 小児の全体関連図を図式化	1. 情報整理、アセスメントしたことを図式化する 1) 付箋に情報、アセスメント内容を記述し、関連図をグループで完成させる 2) 看護問題を予測する	講義 GW 課題あり	A
5	5. 小児の発達段階・障害された機能・経過別に応じた看護問題の抽出	1. 関連図の内容をふまえたアセスメントの記述を行う 2. 子どもの健康状態に合わせた看護問題の抽出 3. 子どもの特徴(成長発達・健康状態)を踏まえたPESの記入	講義 GW 課題あり	A
6	6. 小児の発達段階・障害された機能・経過別に応	1. 排痰援助もしくは吸引の場面で、成長発達に合わせた計画の立案	GW	A

	じた看護計画の立案	1) 観察項目 2) 成長発達に合わせているという根拠 3) 具体的な声掛け、工夫 2. 実習ロールプレイで発表できる準備		
7	7. プリパレーションの発表	1. 発表する中で子どもに合わせた工夫点 2. 検査・処置中の安全への配慮 3. 他のグループの発表からの学び	発表	A
8	入院する子どもの環境と特徴・看護	1. 子どもとのコミュニケーション 2. 入院する子どもの特徴と看護 3. 子どもの入院環境 4. ベッドの取り扱い	講義	B
9	小児の身体測定、フィジカルアセスメント	1. 測定の方法と発達状況の評価 2. 身体測定	講義 演習（教室内）	B
10	呼吸管理	1. 子どもの解剖生理的な特徴 2. 気道の確保 3. 酸素供給	講義	B
11	検査の介助とプリパレーション	1. プリパレーション 2. ディストラクション 3. 検査の介助 （治療に伴う抑制、点滴の固定方法） 4. 手術を受ける子どもの看護	講義	B
12	小児の薬物治療時の看護	1. 小児の薬物療法 1) 経口薬 2) 点眼、点耳、点鼻薬 3) 座薬 4) 点滴管理	講義	B
13	バイタルサイン測定①	1. 事例に合わせた測定方法の計画	GW 演習	B
14	バイタルサイン測定②	2. 実習室での計測演習	演習	B
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験 看護過程の提出状況、内容、プリパレーションの発表状況 1回目の「看護師として小児看護で何を大事にしたいか」の変化の有無を7回目終了後レポートで提出			
備考				

科目名	成人看護学概論	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
担当者名	専任教員			
科目目標	1. 成人期にある対象の特徴について理解できる。 2. 成人期にある対象の看護について理解できる。 3. 社会的動向をふまえ、成人の健康問題の特徴について理解できる。 4. 成人の健康障害時の健康レベルに応じた看護の特徴や方法について理解できる。			
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	成人期にある対象の理解	1. 生涯発達の特徴 2. 成人期における各発達段階の特徴 青年期、壮年期・中年期、向老期	講義	
2	成人を取り巻く社会的動向と成人の生活	成人の生活状況の特徴 1) 死亡と死因の動向 2) 就労条件・環境と疾病との関係 3) 家庭形態の変化・ワークライフバランス	講義	
3	成人の生活と健康問題Ⅰ	生活習慣とライフスタイル 1) 生活習慣に関する健康課題 2) 職業に関する健康課題 3) ストレスに関する健康課題	講義	
4	成人の生活と健康問題Ⅱ	生活習慣とライフスタイル	講義・GW	
5	成人の生活と健康問題Ⅲ	健康の保持・増進と予防のための生活習慣	GW	
6	成人の生活と健康問題Ⅳ	健康の保持・増進と予防のための生活習慣	講義・GW	
7	成人看護学に活用できる理論・看護アプローチⅠ	1. アンドラゴジー 2. ストレス・コーピング 3. 障害の受容過程・ボディイメージ 4. 危機理論	講義 演習	
8	成人看護学に活用できる理論・看護アプローチⅡ	1. 自己効力・アドヒアランス 2. エンパワーメント 3. セルフケア・症状マネジメント	講義 演習	
9	病気の経過別看護の特徴Ⅰ	急性期にある人の特徴と看護	講義	
10	病気の経過別看護の特徴Ⅱ	回復期・リハビリテーション期にある人の特徴と看護	講義	
11	病気の経過別看護の特徴Ⅲ	慢性期にある人の特徴と看護	講義	
12	病気の経過別看護の特徴Ⅳ	終末期にある人の特徴と看護	講義	
13	成人期にある対象の看護Ⅰ	1. 家族看護・代理意思決定支援 2. チーム医療	講義 演習	
14	成人期にある対象の看護Ⅱ	1. 継続看護・退院支援 2. 意思決定支援	講義 演習	
15	単位認定試験	まとめと試験		
評価方法	単位認定試験(80%)、小テスト・レポート課題(20%)			
参考図書	国民衛生の動向 2019/2020 一般財団法人厚生労働統計協会			

科目名	運動機能に障害のある成人の看護		対象学年・時期	2年生・前期	
			時間数(単位)	30時間(1)	
講師名	看護師A 看護師B 看護師C				
科目目標	1. 運動機能障害のアセスメント方法が理解できる 2. 運動機能障害のある対象の検査・治療に伴う看護が理解できる 3. 運動機能障害のある対象の看護が理解できる				
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経 医学書院				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	1. 運動器の看護を学ぶにあたって	1. 医療の動向と看護 2. 運動器疾患患者の特徴 3. 看護の役割		講義	A
2	2. 援助のためのおもな知識と技術	1. 日常生活動作に対する援助 2. 良肢位と身体各部の相互位置関係 3. 生活の調整		講義	A
3	3. 症状に対する看護	1. 神経麻痺 2. 循環障害とフォルクマン拘縮 3. 疼痛 4. 出血 5. 感染 6. 深部静脈血栓 7. 褥瘡		講義	A
4	4. 検査を受ける患者の看護	1. 関節可動域検査(ROM)、徒手筋力テスト(MMT) 2. X線検査 3. 脊髄造影、椎間板造影 4. 膝関節鏡 5. 筋生検		講義	A
5	5. 保存療法を受ける患者の看護	1. ギプス固定 2. 副子固定 3. 牽引療法		講義	A
6	6. 手術療法を受ける患者の看護	1. 運動器の手術 2. 手の腱の手術 3. 脊椎固定術 4. 膝関節の手術 5. 四肢の切断術		講義	A
7	7. 疾患をもつ患者の看護	1. 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子骨折患者の看護 2. 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 3. 脊椎損傷患者の看護 4. 骨腫瘍患者の看護 5. 関節リウマチ		講義	A
	8. 経過に応じた看護	1. 急性期・回復期・慢性期・終末期の看護			
8	1. 脳・神経の看護を学ぶにあたって	1. 医療の動向と看護 2. 脳神経疾患患者の特徴 3. 看護の役割		講義	B
	2. 症状・障害をもつ患者の看護	1. 意識障害のある患者の看護 2. 言語障害のある患者の看護 3. 運動麻痺のある患者の看護 4. 高次機能障害のある患者の看護			
9	3. 検査・処置を	1. 脳波検査		講義	B

	受ける患者の看護	2. 髄液検査 3. 脳血管造影		
	4. 治療を受ける患者の看護	1. 開頭手術を受ける患者の看護(くも膜下出血) 2. 血管バイパス術 3. 血管内治療 4. 脳室—腹腔 (V-P) シヤント術 5. 脳室ドレナージ 6. 低体温療法		
10	5. 疾患をもつ患者の看護	1. 脳腫瘍患者の看護 2. 頭部外傷患者の看護 3. 感染症(脳炎・髄膜炎)患者の看護 4. 脊髄損傷患者の看護	講義	B
11	6. 疾病の経過と看護①	1. 急性期・回復期の看護: 脳梗塞	講義	B
12	7. 疾病の経過と看護②	1. 慢性期・終末期の患者の看護 2. 継続看護	講義	C
	8. 治療・処置を受ける患者の看護	1. 内科的治療をうける患者の看護		
13	9. 症状・障害をもつ患者の看護	1. 運動失調・不随運動のある患者の看護 2. 筋力低下 3. 感覚障害 4. 嚥下障害 5. 排尿障害 6. 呼吸障害	講義	C
14	10. 疾患をもつ患者の看護	1. 筋ジストロフィー患者の看護 2. 重症筋無力症患者の看護 3. ギランバレー症候群患者の看護 4. 筋萎縮性側索硬化症患者の看護 5. 多発性硬化症患者の看護 6. パーキンソン病患者の看護	講義	C
15	単位認定試験	試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	生命維持機能に障害のある成人の看護		対象学生・時期	2年生・前期
			時間数(単位)	30時間(1)
講師名	看護師A 看護師B			
科目目標	1. 生命維持機能に障害のある成人のアセスメント方法が理解できる。 2. 生命維持機能に障害のある成人の治療・検査に伴う看護が理解できる。 3. 生命維持機能に障害のある患者の看護が理解できる。			
使用テキスト	1. 系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 呼吸器の看護を学ぶにあたって	1. 医療の動向 2. 患者の特徴 3. 看護の役割	講義	A
	2. 疾患の経過と看護	1. 急性期～回復期の患者の看護 1) 開胸術を伴う手術を受ける患者の看護 2) 胸腔鏡下で手術を受ける患者の看護 2. 慢性期の患者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 3. 終末期の看護		
2	3. 症状に対する看護	1. 咳嗽・喀痰のある患者の看護 2. 血痰・喀血のある患者の看護 3. 胸痛のある患者の看護 4. 呼吸困難のある患者の看護	講義	A
3	4. 検査を受ける患者の看護	1. 動脈血ガス分析、呼吸機能検査 2. 気管支鏡 3. 胸腔穿刺 4. 肺生検	講義	A
4	5. 治療、処置を受ける患者の看護	1. 治療、処置を受ける患者の看護 1) 吸入療法、酸素療法 2) 人工呼吸器、非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 3) 気管切開を受ける患者の看護 4) 胸腔ドレナージを受ける患者の看護	講義	A
5	6. 疾患を持つ患者の看護	1. 肺炎患者の看護 2. 結核患者の看護 3. 気管支喘息患者の看護 4. 肺血栓塞栓症患者の看護 5. 急性呼吸窮迫症候群患者の看護 6. 睡眠時無呼吸症候群患者の看護 7. 肺がん患者の看護 8. 自然気胸患者の看護	講義	A

6	循環機能に障害のある成人の看護 1. 循環器、刺激伝導系の解剖のふり返り	1. 循環器系の解剖生理 血管・心臓の構造と機能 2. 心臓の電気活動 1) 刺激伝導系 2) ペースメーカー 3) ペースメーカー挿入中の患者の看護 3. 循環器疾患における主な検査とその看護 1) 12誘導心電図 2) 心臓カテーテル検査	講義	B
7	2. 循環器系疾患における薬物療法と看護	1. 薬物療法と看護	講義	B
8	3. 疾患を持つ患者の看護	1. 虚血性心疾患患者の看護 1) 狭心症 2) 心筋梗塞 2. 不整脈に対する看護	講義	B
9		3. 動脈系疾患患者の看護 4. 心不全患者の看護		
10	4. 疾患の経過と看護	1. 開心術後の看護 2. 造血器疾患患者の看護① 3. 貧血の分類と看護	講義	B
11		4. 造血器疾患患者の看護② 5. 化学療法、輸血療法、GVHD		
12	5. 看護過程 (事例検討)	1. 事例を基にグループワーク 2. 問題の抽出と計画立案	講義、GW	B
13				
14	6. 発表会	1. 事例発表会 2. まとめ		B
15	単位認定試験	試験		
評価方法	課題・試験			
備考				

科目名	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護		対象学生・時期	1年生・後期	
			時間数(単位)	30時間(1)	
講師名	看護師A 看護師B				
科目目標	1. 消化機能、代謝機能に障害のある対象の観察とアセスメント方法が理解できる。 2. 消化機能、代謝機能に障害のある対象の検査・治療に伴う看護が理解できる 3. 消化機能、代謝機能に障害のある対象の看護が理解できる。				
使用テキスト	1. 系統看護学講座 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 医学書院 3. 系統看護学講座 成人看護学 15 歯・口腔 医学書院				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	1. 内分泌・代謝機能障害のある患者の特徴と看護の役割	1. 医療の動向と看護 2. 内分泌・代謝機能障害のある患者の特徴 3. 看護の役割		講義	A
2	2. 内分泌疾患の検査・処置を受ける患者の看護	1. ホルモン血中・尿中濃度測定 2. ホルモン負荷試験 3. 画像検査		講義	A
3	3. 内分泌疾患の治療を受ける患者の看護	1. 下垂体疾患患者の看護 2. 甲状腺疾患患者の看護 1) ホルモン療法 2) 手術療法 3. 副甲状腺疾患患者の看護 4. 副腎疾患患者の看護		講義	A
4	4. 代謝性疾患患者の看護	1. 脂質異常症患者の看護 2. 肥満・るい痩患者の看護 3. 尿酸代謝異常患者の看護 4. 糖尿病患者の特徴 1) 疾患の特徴 2) 患者の特徴(身体的・心理的・社会的)		講義	A
5	5. 代謝性疾患の治療・処置を受ける患者の看護	1. 糖負荷試験(OGTT) 2. 血糖自己測定(SMBG) 3. 静脈性尿路造影 4. 腎生検		講義	A
6	6. 糖尿病治療を受ける患者の看護	1. 食事療法 2. 運動療法 3. 薬物療法 1) インスリン補充療法 2) 糖尿病経口薬 4. 合併症予防 1) 血液透析 2) 腎移植		講義	A
7	7. 糖尿病患者への看護技術	1. 血糖測定 2. インスリン補充療法		演習	A
8	8. 消化機能障害のある患者の特徴と看護の役割	1. 医療の動向と看護 2. 消化機能障害のある成人の特徴 3. 看護の役割		講義	B
	9. 消化機能障害検査を受ける患者の看護	1. 上部消化管内視鏡 2. 大腸内視鏡 3. 消化管造影 4. 造影CT/MRI 5. 直腸診			

9	10. 内科的治療・処置を受ける患者の看護（消化管）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病・膵炎）患者の看護 2. 胃瘻・腸瘻を持つ患者の看護 	講義	B
10	11. 外科的治療・処置を受ける患者の看護（消化管）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 咽頭・喉頭摘出術（使用テキスト：系統看護学講座 成人看護学 15 歯・口腔） 2. 食道切除術 3. 胃切除術 4. 大腸がん、ストーマ造設術 5. 手術後ドレナージ 	講義	B
11				
12	12. 検査を受ける患者の看護（肝胆膵）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP） 2. 腹部超音波 3. 腹腔鏡 	講義	B
13	13. 外科的治療を受ける患者の看護（肝胆膵）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肝切除術 2. 腹腔鏡下胆のう摘出術 3. 膵頭十二指腸切除術 	講義	A
14	14. 内科的治療を受ける患者の看護（肝胆膵）	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターフェロン療法 2. 肝動脈塞栓術 3. 食道静脈瘤内視鏡的治療 4. 放射線療法を受ける患者の看護 	講義	A
15	単位認定試験	試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	排泄機能、生殖機能、免疫機能に障害のある成人の看護		対象学生・時期	2年生・前期	
			時間数(単位)	30時間(1)	
講師名	看護師A 看護師B 看護師C 非常勤講師D				
科目目標	1. 排泄機能、生殖機能、免疫機能障害のアセスメント方法が理解できる。 2. 排泄機能、生殖機能、免疫機能障害の治療・検査に伴う看護が理解できる。 3. 排泄機能、生殖機能、免疫機能障害をもつ患者の看護が理解できる。				
使用テキスト	1. 系統看護学講座 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 3. 系統看護学講座 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	1. 腎・泌尿器の看護を学ぶにあたって	1. 医療の動向と看護 2. 腎・泌尿器疾患患者の特徴 3. 看護の役割		講義	A
2	2. 症状に対する看護	1. 浮腫 2. 高血圧 3. 下部尿路症状 4. 尿の性状異常、疼痛		講義	A
3	3. 検査を受ける患者の看護	1. 尿検査 2. 膀胱鏡検査 3. 画像検査 4. 生検 1) 腎生検 2) 膀胱組織検査 3) 前立腺組織検査 5. 尿流動態検査 6. 残尿測定		講義	A
4	4. 手術、薬物療法、移植を受ける患者と機能障害のある患者の看護	1. 手術を受ける患者の看護 1) 膀胱の手術を受ける患者の看護 膀胱全摘術および尿路変更術 2) 前立腺の手術を受ける患者の看護 経尿道的前立腺切除術 3) 腎臓の手術を受ける患者の看護 4) 精巣の手術を受ける患者の看護 5) 尿路結石の手術を受ける患者の看護 2. 薬物療法を受ける患者の看護(内分泌療法) 3. 腎移植を受ける患者の看護 4. 性・生殖機能に障害のある患者の看護		講義	A
5	5. 透析療法を受ける患者の看護	1. 保存期から透析導入期の患者の看護 2. 血管透析患者の看護(導入期・維持期・慢性期) 3. 腹膜透析患者の看護(導入期・維持期・慢性期) 4. 持続血液透析濾過を受ける患者の看護		講義	A
6	6. 女性生殖器の看護を学ぶにあたって	1. 医療の動向と看護 2. 女性生殖器疾患患者の特徴 3. 看護の役割		講義	D
	7. 検査・処置を受ける患者の看護	1. 外診時の看護 2. 内診時の看護 3. 検査・処置時の看護 1) マンモグラフィ 2) 乳房超音波検査			
7	8. 臓器別疾患患者の看護	1. 外陰部疾患患者の看護 2. 膣疾患患者の看護 3. 子宮疾患患者の看護 4. 卵管・卵巣疾患患者の看護 5. 乳房疾患患者の看護		講義	D
8	9. 機能別疾患患者の看護	1. 月経異常・月経随伴症状のある患者の看護 2. 高齢女性に起こりやすい女性生殖器疾患患者の看護 1) 更年期障害 2) 子宮下垂・子宮脱 3) 萎縮性膣炎症		講義	D
9	10. 手術、化学療法、放射線療法、ホルモン療法を	1. 手術を受ける患者の看護 1) 外性器・内性器の手術 2) 乳房の手術 2. 化学療法を受ける患者の看護 3. 放射線療法を受ける患者の看護		講義	D

	受ける患者の看護	4. ホルモン療法を受ける患者の看護		
10	1 1. 免疫機能に障害のある成人の看護 ①	1. アレルギー患者の特徴と看護の役割 1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴と看護の役割 2. アレルギー症状に対する看護 1) 呼吸器症状 2) 消化器症状 3) 皮膚症状 3. アレルギー検査を受ける患者の看護 1) スキンテスト 4. アレルギー治療を受ける患者の看護 1) 減感作療法 2) ステロイド療法 5. アレルギー疾患を持つ患者の看護	講義	B
11				
12	1 2. 免疫機能に障害のある成人の看護 ②	1. 膠原病患者の特徴と看護の役割 1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴と看護の役割 2. 膠原病の検査・治療を受ける患者の看護 1) 血液・免疫学的検査 2) 薬物療法 3. 膠原病疾患を持つ患者の看護	講義	C
13	1 3. 免疫機能に障害のある成人の看護 ③	1. 感染症患者の特徴と看護の役割 1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴と看護の役割 3) 看護を取り巻く感染症の問題 2. 感染症検査・治療における看護 1) 検体採取時の看護 2) 抗菌薬投与中の看護 3. 感染症疾患を持つ患者の看護 1) HIV/AIDS 患者の病期に応じた看護 2) 免疫抑制状態の患者の看護	講義	C
14			講義	C
15	単位認定試験	試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	成人看護学演習	対象学生・時期	2年生・前期					
		講義時間（単位）	30時間（1）					
講師名	専任教員							
科目目標	1. 健康障害のある成人期を対象とした看護過程の展開ができる。 2. 成人期の看護に必要な看護技術が理解できる。							
使用テキスト	医学書院 臨床外科看護総論							
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当				
1	1. 慢性的な揺らぎの再調整を促す看護展開	1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護の基礎知識 1) 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 2) 慢性疾患の共存を有する人とその家族への支援の基本	講義 GW					
		2. 慢性期にある患者（糖尿病）の看護 1) 情報収集						
		2) 共同目標の設定 3) アクションプラン設定の援助 4) 実施Ⅰ（ロールプレイ）						
2		5) 計画の評価・修正	演習 GW					
3		6) 実施Ⅱ（ロールプレイ） 7) 計画の評価・修正	演習 GW					
4	2. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護展開	1. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護の基礎知識 1) 健康の急激な破綻とその生体反応 2) 急激な健康破綻をきたした人の看護	講義 演習 GW					
		2. 周手術期にある患者（胃がん）の看護 1) 意図的な情報収集、情報の整理						
		2) アセスメント			演習 GW			
		3) 目標設定 4) 計画立案			演習 GW			
		5) 実施（術後ベッド作成） 6) 計画の評価・修正			演習 GW			
		5) 実施（術直後の患者の観察） 6) 計画の評価・修正			講義 GW			
		7) 実施（術後患者の初回歩行の援助） 8) 計画の評価・修正			演習 GW			
		9) 実施（退院指導） 10) 計画の追加・修正			演習 GW			
		11			3. 救急看護体制と看護の展開	1. 救急医療の現状 2. 救急医療における看護 1) 救急看護の役割 2) 救急患者の特徴	講義 GW	
		12				3. 救急患者の観察とアセスメント 1) 緊急度と重症度の判断 2) 全身状態の判断		
13	4. 主要病態に対する救急処置と看護 1) 鑑別、診断のために行われる検査及び治療	演習 GW						

14		5. 救急時の看護技術	演習	
15	単位認定試験	筆記試験 まとめ	講義 試験	
評価方法	1. 授業態度 2. 課題 3. 筆記試験			
備考	授業に必要なテキスト、資料はシラバスを見て各自で用意をする			

科目名	精神看護学概論	対象学生・時期	2年生・前期		
		講義時期(単位)	30時間(1)		
講師名	看護師				
科目目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念が理解できる 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解できる。 3. 精神看護の対象及び看護の目的が理解できる。 4. 精神看護におけるリスクマネジメントが理解できる。				
使用テキスト	・新体系看護学全書 精神看護学概論 精神保健 メジカルフレンド社 ・新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	1. 精神科看護から精神看護へ	1. こころ・精神・心理 2. 地域精神保健における予防 3. 患者の権利擁護 4. こころの健康への普及活動		講義	
2	2. こころと身体	1. こころの構造 2. こころと身体・ストレスの関係 3. こころと脳		講義	
3・4	3. 成長発達と健康な心の発達	1. 心の機能と発達 2. 精神の発達に関する理論 3. 成人期・老年期におけるこころの発達と危機 4. 家族のライフサイクル		講義 講義	
5・6	4. 環境と心の働き	1. 現代社会の特徴と社会病理 2. 現代社会における精神保健の問題 1) DV 2) 引きこもり 3) ハラスメント 4) 自殺 5) 不登校 6) いじめ 7) 自傷行為 8) 虐待 9) 依存		講義	
7	5. 精神看護の目的と場	1. 精神看護の目的 2. 活動の場と内容 病院中心から地域中心に 3. 精神に障害を持った人のための治療的環境 4. 次世代に目指す看護		講義	
8・9	6. 危機と介入	1. 危機とは 2. 危機予防 3. 適応理論(コーピング・レジリエンス・ストレングス) 4. 具体的な介入方法		講義	
10	7. 危機による精神・身体への影響と予防の概念	1. 病気になることで起こる危機 2. 臨床における危機状況 3. 看護師のストレスマネジメント 4. 危機状況における影響		講義	

		5. 精神保健予防の概念		
11・12	8. 精神医療保険の歴史と法律	<ul style="list-style-type: none"> 1. 精神医療と看護の歴史 2. 精神保健および精神障害福祉法 3. 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律 4. 障害者自立支援法 5. 差別解消法 6. 成年後見制度 7. 法律における課題 	講義	
13	9. 精神科における看護	<ul style="list-style-type: none"> 1. 主な症状と観察ポイント 2. 観察の際のポイント 3. リスクマネジメント 4. セルフケアへの援助 	講義	
14	10. 社会復帰と社会参加におけるリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> 1. 精神保健医療福祉に関する社会資源 2. 社会復帰へのケアマネジメント 	講義	
15	単位認定試験	まとめ 修了試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	精神看護援助技法	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	非常勤講師			
科目目標	1. 精神看護の基本技法を学び、対象と家族の理解及び必要な援助方法が理解できる。			
使用テキスト	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メジカルフレンド社 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護メジカルフレンド社			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1～4	1. 精神障害をもつ人と「患者一看護師」関係の構築	1. 精神障害をもつ人とのかかわ方 ①「患者一看護師」関係の目指すこと ②「患者一看護師」関係を「理解するためのてがかり」 ③関係構築にあたって基本的な態度 2. 精神障害を持つ人とのコミュニケーション ①コミュニケーションとは ②精神障害をもつ人のコミュニケーションの特徴 ③コミュニケーション技法	講義	
5～6	2. 精神障害を持つ人への看護援助	1. 精神障害を持つ人との関係の振り返り 2. 看護援助の基本構造 3. 精神障害をもつ人のセルフケアの援助 ①セルフケアとは何か ②看護理論の必要性 4. 患者による自己理解 ①セルフマネジメントの背景 ②患者と医療者との関係からみたセルフマネジメント ③セルフマネジメントのための疾病教育 ④服薬自己管理 5. 家族の理解と援助	講義	
		6. 安全を守る ―暴力―	講義	
7				
8	単位認定試験	修了試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	精神障害のある対象の看護	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時期(単位)	30時間(1)	
講師名	看護師A 看護師B 看護師C 看護師D 非常勤講師E			
科目目標	1. 精神障害をもつ人の看護援助が理解できる。 2. 精神障害を持ちながら生活する対象と家族に必要な支援方法が理解できる。			
使用テキスト	新体系看護学全書 新体系看護学全書	精神看護学概論 精神障害をもつ人の看護	精神保健 メジカルフレンド社	メジカルフレンド社
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1～8	1. 精神障害を持つ人への看護	1. 精神科病棟という治療的環境と患者の生活 1) 精神障害をもつ人にとっての入院の意味 2) 治療的環境の整備 3) 事故防止・安全管理と倫理的配慮 3. 精神疾患/障害をもつ患者への看護 ①うつ病 ②双極性障害 ③強迫性障害 ④神経性やせ症摂食障害 ⑤注意欠陥・多動性障害 ⑥自閉症スペクトラム障害 ⑦パーソナリティ障害 ⑧不安症 ⑨心的ストレス障害・ストレス因関連障害 ⑩器質性精神障害 ⑪身体症状症 ⑫知的障害	講義	A B
9～13	1. 精神障害を持つ人への看護	4. 事例で学ぶ精神疾患/障害をもつ患者への看護 ①統合失調症 急性期・回復期・慢性期にある患者の看護 ②依存症(アルコール・薬物・ネット) ③認知症 ④てんかん	講義	C D
	2. 精神障害を持ちながら生活する対象と家族に必要な支援	1. 精神障害を持つ人の地域生活支援の実際 ①地域生活を支える社会制度 ②長期入院患者の地域生活への移行支援 2. 精神障害を持つ人を介護する家族への支援		
	3. 我が国の精神看護の発展	1. 司法精神医学と司法精神看護 ① 司法精神医療と司法精神看護 ② 法精神障害者の処遇としての司法精神医療 ③ 暴力被害者の支援と司法精神看護	講義	C
14	4. 精神専門看護の活動	1. リエゾン精神看護 リエゾン精神看護とは ① リエゾン精神看護活動 ② ケアの実際	講義	E
15	単位認定試験	まとめ 修了試験		
評価方法	筆記試験、第1回～第13回の学習内容で評価する。			
備考				

科目名	精神看護学演習		対象学生・時期	2年生・後期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	専任教員A 看護師B 看護師C				
科目目標	1. 精神障害のある対象の援助が考えられる。 2. プロセスレコードによって自己のコミュニケーションの課題が発見できる。 3. リハビリテーションの看護を理解できる。				
使用テキスト	新体系 看護学全書	精神看護学概論・精神保健	メジカルフレンド社		
	新体系 看護学全書	精神障害を持つ人の看護	メジカルフレンド社		
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1～10	1. 精神疾患をもつ対象の看護過程の展開	1. 統合失調症の患者の看護過程の展開 1) 事例を理解し、問題の抽出 2) 問題の抽出から看護目標・看護計画の立案 2. うつ病患者の看護過程の展開 1) 事例を理解し、問題の抽出 2) 題の抽出から看護目標・看護計画の立案 *GWでどちらか1事例を展開し、発表をとおして共有学習を行う 3. 患者・看護師の関係論 1) 理論の理解 2) ロールプレイを通してうつ病患者のかかわりについて考える 3) ロールプレイを通して統合失調症の患者とのかかわりを考える		講義 演習 GW	A
11～12	2. コミュニケーションの課題発見	1. プロセスレコードを用いた事例展開 1) 援助場面の振り返りの実際 2) 自己のコミュニケーションの実際をつかむ		講義 演習	A
13～14	3. さまざまなリハビリテーション療法	1. 精神療法 2. 教育的アプローチ 3. 認知行動療法 4. 精神作業療法 5. レクリエーション療法 6. SSTの実際		講義 演習	B C
15	単位認定試験	まとめ 修了試験			
評価方法	筆記試験 講師による提出物の内容、提出期限等				
備考					

科目名	母性看護学概論		対象学生・時期	2年生・前期
			講義時期(単位)	30時間(1)
講師名	非常勤講師			
科目目標	1. 母性看護の概念が理解できる 2. 人間の性と生殖について理解できる 3. 母性看護の倫理と法律が理解できる 4. ライフサイクル各期における対象の特徴と看護が理解できる 5. 母性を取り巻く社会的動向が理解できる 6. 学生自身が自己の父性観、母性観に気づき、次代を担う人の育成について考えられる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院			
	主題	主な学習内容	授業形態	
1次	1. 母性看護の概念	1. ウイメンズヘルスの定義 2. リプロダクティブヘルス/ライツ 3. ヘルスプロモーション 4. ジェンダー 5. 性の多様化	講義 レポート	
2次				
3次	2. 人間の性と生殖	1. 性周期と性機能のメカニズム 2. 女性の権利 3. セクシュアリティ 4. 性の健康 5. 性感染症	講義	
4次				
5次	3. 母性を取り巻く社会的動向	1. 女性のライフサイクルと家族 2. 母子関係と愛着 3. 女性の健康のアセスメント 4. メンタルヘルス 5. 不妊	講義	
6次				
7次	4. 母性看護の倫理	1. 母性看護における倫理的課題 2. 出生前診断 3. 生命倫理と女性の自己決定	講義 GW レポート	
8次				
9次	5. ライフサイクル各期における対象の特徴と看護	1. 女性のライフサイクル各期の健康課題と看護 2. 女性の健康と制度	講義 GW	
10次				
11次	6. 母性を取り巻く社会的動向	1. 父親の役割 2. 虐待、DV 3. 母乳育児 4. 子育て支援 5. 現代社会における課題	GW発表 レポート	
12次				
13次	7. 母性看護の制度と法律	1. 女性の健康と制度 2. 母子保健統計 3. 法律 4. 周産期医療のシステムと母子保健施策	講義	
14次				
15次	単位認定試験	筆記試験		
評価計画				

科目名	正常な経過をたどる妊産褥婦の看護		対象学生	2年生・前期	
			講義時間・単位数	30時間（1）	
講師名	医師A 看護師B 看護師C 看護師D				
科目目標	1. 正常な経過をたどる妊産褥婦各期の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる 2. 正常な経過をたどる妊産褥婦各期のアセスメントが理解できる 3. 各期の看護と保健指導が理解できる				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				
時間（回数）	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1次～14次	1. 妊娠期の看護	1. 妊娠期の身体的特性 2. 妊娠期の心理・社会的特性 3. 妊婦と胎児のアセスメント 4. 妊婦と家族の看護		講義	A B
	2. 分娩期における看護	1. 分娩の定義と3要素 2. 分娩の経過 3. 産褥・胎児、家族のアセスメント 4. 産婦と家族の看護 5. 分娩期の看護の実際			
	3. 新生児期における看護	1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児と家族の看護		講義	C
	4. 産褥期における看護	1. 産褥期における看護 2. 褥婦のアセスメント 3. 褥婦と家族の看護 4. 施設退院後の看護		講義	D
15次	単位認定試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験				

科目名	異常な経過をたどる妊産褥婦の看護	対象学生	2年生・後期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	医師A 看護師B			
科目目標	1. 異常な経過をたどる妊産褥婦の各期が理解できる 2. 異常な経過をたどる妊産褥婦の各期の看護が理解できる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論(第11版)医学書院			
時間(回数)	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1次	1. 妊娠期の異常	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続時間の異常 6. 子宮外妊娠 7. 不育症 8. 出生前診断	講義	A
2次	2. 分娩期の異常	1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児の付属物の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 7. 分娩第3期および分娩直後の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置と産科手術	講義	
3次	3. 新生児の異常	1. 新生児仮死 2. 分娩外傷 3. 低出生体重児 4. 高ビリルビン血症 5. 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	講義	
4次	4. 産褥期の異常	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 産褥血栓症 4. 乳腺炎 5. 排尿障害 6. 精神障害	講義	
5次～7次	5. 妊娠期の異常時の看護	1. ハイリスク妊娠の看護	講義	B
	6. 分娩期の異常と看護	1. 異常のある産婦の看護 2. 異常分娩時の産婦の看護 3. 分娩時異常出血のある産婦の看護	講義	
	7. 新生児の異常と看護	1. 先天性異常児の看護 2. 低出生体重児の看護 3. 呼吸障害のある新生児の看護 4. 代謝異常のある新生児の看護	講義	
	8. 産褥期の異常と看護	1. 異常のある褥婦の看護	講義	

	9. 精神障害合併の妊婦と 家族の看護	1. 不安症・不安障害 2. 統合失調症 3. 抑うつ障害 4. 産後うつ病 5. 死産時の看護	講義	
8次	単位認定試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験			

科目名	母性看護学演習 (看護過程・看護技術)	対象学生	2年生・後期
		講義時間	30時間(1)
講師名	専任教員		
科目目標	1. 母性看護の対象が理解できる 2. 母性看護過程の特徴が理解できる 3. 産褥・新生児の正常経過が理解できる 4. 正常過程の産褥・新生児のアセスメントができる 5. 正常過程の産褥・新生児の看護問題が明確化できる 6. 正常過程の産褥・新生児の看護計画が立案できる 7. 母性に特徴的な援助技術を習得できる		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論(第13版) 医学書院		
時間(回数)	主題	主な学習内容	授業形態
1次	1. 母性看護過程の捉え方	1. 母性看護過程の考え方 2. 母性におけるウェルネス志向について 3. 妊娠期のアセスメント 4. 分娩期のアセスメント	講義 事例の提示 個人ワーク
2次	2. 妊娠期、分娩期の経過診断	1. 妊娠期のアセスメント 2. 分娩期のアセスメント 3. 妊娠期、分娩期のアセスメント発表	GW 発表
3次	3. 妊娠期の援助技術	1. 妊婦体験 2. 腹囲・子宮底の測定 3. レオポルド触診法 4. 胎児心音聴取	演習
4次	4. 産褥1日目、生後1日目までの経過診断	1. 褥婦のアセスメント 2. 褥婦のアセスメント発表	GW 発表
5次		1. 新生児のアセスメント 2. 新生児のアセスメント発表	GW 発表
6次	5. 新生児への援助技術①	1. 新生児のバイタルサイン測定 2. 新生児の身体計測 3. 新生児の衣服交換・おむつ交換 4. 沐浴	講義・演習
7次	6. 産褥3日目、生後3日目までの経過診断	1. 褥婦のアセスメント 2. 新生児のアセスメント 3. 褥婦、新生児のアセスメント発表	GW 発表
8次	7. 新生児への援助技術②	1. 新生児の衣服交換・おむつ交換 2. 沐浴	演習
9次		1. 看護問題の明確化(優先順位の考え方) 2. 目標(期待される結果) 3. 看護計画の立案 4. 看護問題、目標、計画の発表	GW 発表
10次	8. 産褥期の援助技術	1. 子宮復古の観察 2. 授乳手技の獲得支援	演習

1 1次	9. 産褥6日目、生後6日目までの経過診断	1. 褥婦のアセスメント 2. 新生児のアセスメント 3. 褥婦、新生児のアセスメント発表) GW、発表
1 2次		1. 目標（期待される結果） 2. 看護計画の立案 3. 指導方法の検討	GW
1 3次	10. 看護援助の実際 （保健指導）	1. 看護援助の発表（ロールプレイ） 2. 看護援助実施の評価	発表
1 4次			
1 5次	単位認定試験		
評価計画	・筆記試験ほか		
備考	<p>この科目では、必要なテキスト、及び「母性看護学概論」「正常な経過をたどる妊産褥婦の看護」「異常な経過をたどる妊産褥婦の看護」の授業資料を整理し、全て持参すること <参考文献></p> <p>写真でわかる母性看護技術 インターメディカ ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程（第3版）医歯薬出版株式会社 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図（第3版）医学書院</p>		

科目名	高齢者看護学概論	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	非常勤講師			
科目目標	1.高齢者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2.高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度が理解できる。 3.高齢者の家族の抱える問題が理解できる。 4.高齢者の尊厳について考えることができる。 5.高齢者看護の役割が理解できる。			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	老年看護の概念 高齢社会の統計的輪郭	テキスト第1章の一部、高齢者看護学を学ぶ必要性、高齢者の定義、加齢・Aging	講義	
2	高齢者と家 高齢者の健康とQOL	高齢者の生活 (高齢者の生きがい、発達過程、自立、QOL、自己決定、エンパワーメント)	講義	
3		(呼吸・循環機能、消化機能、代謝・排泄機能、免疫機能の老化)	講義	
4	高齢者の理解(身体的・生理的側面)	(脳、認知・知覚機能、筋骨系、感覚器系、性機能の老化、)	講義	
5	高齢者を取りまく社会	高齢社会の保健・医療・福祉制度	講義	
6	高齢者看護における倫理的課題	高齢者の差別、高齢者虐待、権利擁護、人権擁護、エイジズム、身体拘束、成年後見制度	講義	
7	高齢者看護の役割と特徴	高齢者看護の基本的姿勢と役割(理念・目標・役割) パーソンセンタードケア、ユマニチュード	講義	
8	単位認定試験			
評価方法	筆記試験、レポート			
備考				

科目名	高齢者の生活援助技術	対象学生・時期	2年生・前後期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	専任教員A 看護師B			
科目目標	1. 高齢者看護学の対象である高齢者を取り巻く社会について考えることができる。 2. 高齢者の疑似体験をすることにより、高齢者の日常生活への影響を理解できる。 3. 高齢者疑似体験から、対象への援助の必要性が理解できる。 4. 高齢者の日常生活動作をアセスメントし、対象に必要な援助を導い出すことができる。 5. 対象に必要な援助を、適切に実施する技術を習得できる。 6. 高齢者の継続看護としての退院支援について学ぶことができる。			
使用テキスト	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	高齢者の理解 （老化とは）	1. 身体的変化の理解 1) 視覚・聴覚 2) 聴力・聴覚 3) ADL	講義	A
2	高齢者の理解 （老化とは）	1. 精神的・社会的変化の理解 2. 高齢者疑似体験	講義 演習	A
3	健康で尊厳ある暮らし	1. 高齢者とのコミュニケーション 2. 自立・介護予防への援助 3. 身だしなみへの援助	講義	A
4	高齢者のケアの実際	1. 食事と栄養 1) 食生活とアセスメント 2) 高齢者の食事に関する看護技術 ①経管栄養患者の看護	講義 演習	A
5	高齢者のケアの実際	2. 排泄への援助 1) 排泄に関するアセスメント ①尿失禁・便失禁のある高齢者の看護 2) 高齢者の排泄に関する看護技術 ①オムツ交換の技術	講義 演習	A
6		3) 高齢者の排泄に関する看護技術 ②摘便の技術	演習	A
7	高齢者のケアの実際	3. 清潔への援助 1) 清潔行動に関するアセスメント ①口腔ケア ②義歯のケア ③舌苔のケア ④麻痺のある患者の寝衣交換	講義 演習	A
8	高齢者のケアの実際	4. 生活リズムと睡眠 1) 睡眠と覚醒の変化 2) 高齢者の生活リズムに関する看護技術 ①睡眠薬の使用方法 3) 高齢者と内服管理 5. 退院支援と看護師の役割	講義	A
9	高齢者のケアの実際	6. 代替療法・リラクゼーション	講義 演習	A

10	高齢者のケアの実際	7. 死亡後のケア 家族支援	演習	A
11	リハビリテーション	1. リハビリテーション概論 自立支援とリハビリテーション	講義	B
12	リハビリテーション	2. 介護予防と杖・歩行器の使い方と 介助	講義 演習	B
13	リハビリテーション	3. 日常生活行動と作業療法	講義	B
14	リハビリテーション	4. 言語障害とリハビリテーション 5. 嚥下障害とリハビリテーション	講義	B
15	まとめ・単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	健康障害のある高齢者の看護	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	看護師A 看護師B			
科目目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と援助方法が理解できる 2. 治療を受ける高齢者の看護が理解できる 3. 高齢者に多い疾患の看護が理解できる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
時間(回数)	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 高齢者に多い疾患とその看護	1. 脳・神経疾患 1) 脳卒中 2) 認知症	講義	A
2		2. 循環器疾患 1) 心不全	講義	A
3		3. 呼吸器疾患 1) 肺炎 2) 慢性閉塞性肺疾患	講義	A
4		4. 消化器疾患 1) 大腸憩室 2) 大腸がん 3) 逆流性食道炎	講義	A
		5. 泌尿器疾患 1) 前立腺肥大症 2) 前立腺がん		
5		6. 運動器疾患 1) 骨粗鬆症 2) 関節リウマチ 3) 変形性関節症	講義	A
		7. がん 1) がんの定義 2) 緩和ケア		
6		8. 精神疾患 1) うつ病 2) せん妄 3) 妄想性障害	講義	A
7		9. 感染症・感覚器系・歯科疾患 1) 感染症 2) 疥癬 3) 老人性掻痒症 4) 白内障 5) 難聴 6) 歯周病	講義	A
8	2. 高齢者に特徴的な症状・メカニズムと看護	1) 摂食嚥下障害	講義	B
9		2) 排尿障害 3) 排便障害	講義	B

10		4) 低栄養 5) 貧血 6) 倦怠感 7) 掻痒感 8) 痛み	講義	B
11		9) 視聴覚の障害 10) 不眠	講義	B
12		11) 褥瘡 12) 寝たきり	講義	B
13	3. 治療をうける高齢者の看護	1) 薬物療法 ①加齢と薬物動態 ②有害反応 ③高齢者への与薬の方法 2) 手術療法 3) リハビリテーション療法	講義	B
14	4. 事故の予防と急変・救急時の対応	1) 転倒転落 2) 誤嚥と窒息 3) 熱中症 4) 熱傷	講義	B
15	単位認定試験	試験		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	高齢者看護学演習	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	専任教員			
科目目標	1、健康障害のある老年期の対象の看護過程が展開できる 2、老年期の対象に潜在意欲を引出し、活動性を高めるための援助について理解できる。 3、老年期の日常生活動作の評価し高齢者の価値観を尊重した看護の必要性が理解できる。 4、終末期にある老年期の対象の看護過程が理解できる			
使用テキスト	老年看護学 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 ほか			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 認知症の看護	1. 認知症の世界観を考える	DVD	
2	2. 高齢者の看護過程の展開	1. 認知症から学ぶ高齢者の特徴 (発達課題の理解) 2. 高齢者の看護の原則の理解 3. フレイルとサルコペニア	講義 個人ワーク グループワーク	
3	3. 認知症の既往を持ち、大腿頸部骨折の治療を受ける高齢者の看護	1. 意図的な情報収集	個人ワーク グループワーク	
4		2. 高齢者のアセスメント ・病態生理の理解 ・生活アセスメント	個人ワーク グループワーク	
5		3. 関連図 ・全人的に対象を捉える	個人ワーク グループワーク	
6		4. 看護問題・看護診断 5. 優先順位の決定	個人ワーク グループワーク	
7		6. 計画立案 ・個別の日常生活能力、目標に合わせた援助 ・人生の統合をはかる支援 ・多職種連携	個人ワーク グループワーク	
8		7. 評価・修正	個人ワーク グループワーク	
9		8. 高齢者の倫理 (ロールプレイング) ①	演習	
10		9. 倫理の原則 (ロールプレイング) ②	演習	

1 1	4. 終末期の看護過程の展開 1) 終末期にある肺がんの高齢者の看護	エンド・オブ・ライフ・ケア 臨死期の評価と援助 意思決定支援 ・高齢者の尊厳・尊重を考える グリーフケア	個人ワーク グループワーク	
1 2		情報収集～アセスメント	グループワーク	
1 3		関連図・看護問題	グループワーク	
1 4		計画	グループワーク	
1 5	単位認定試験	高齢者観のまとめ 筆記試験	試験 講義	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートと授業態度での評価（別紙参照）と筆記試験での合計点 ・演習参加状況により減点の可能性あり 			
備考	学習の進度により、授業形態および授業順序等を変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。			